

生徒会室はA棟2階です

愛知産業大学三河高等学校 生徒会執行部
平成29年12月14日(木) 発行

皆さんこんにちは、生徒会執行部です。
9月29日(金)に実施しました『駐日外交官による交流プロジェクト』関係者のメッセージが届きましたので紹介します。



ヴィオレタ・ガイザウスカイト駐日リトアニア共和国臨時代理大使

It was a great pleasure to get to know the Staff and the students of Aichi Sangyo University Mikawa Senior High School. I would like to extend my sincere gratitude to Mr. Hiroo Saioji, the president of the Goi Peace Foundation for the proposal to visit Aichi Sangyo Mikawa Senior High School which I gladly accepted. It was my pleasure to have an opportunity to introduce students to my home country Lithuania.

To be honest, at first I was slightly anxious to speak in front of such large and so well prepared audience. However, a very warm welcome and students' interest made me feel very much at ease. Lithuania and Japan are different cultures and very far away from each other but all barriers seamlessly melted away thanks to the professional translation of Mr. Tatsuru Nakayama. Sincere interest in other cultures and people, willingness to communicate to each other truly has a power to overcome any obstacles. Also, I would like to invite you to visit Lithuanian Embassy in Tokyo.

Students' presentations about Lithuania were truly well done and absolutely captivating. I truly hope that student interest in Lithuania will continue to grow and we will see more people from Japan coming to Lithuania for studies. Lithuania and Japan could find a lot things in common and that includes the shared memory of legendary diplomat, Righteous Amon the Nations Chiune Sugihara whose act of humanism could be regarded as a great example to both Japanese and Lithuanian youth.

I would like to wish the students to work hard and dream big. You are young, determined and talented and keeping your Yamato-damaishii will help you not to give up on your dreams. Also I wish Aichi Sangyo Mikawa Senior High School a great success.

Thank you very much again for the kind welcome and an opportunity to meet you all.

Violeta Gaizauskaitė
Charge d' Affaires, a.i.

The Embassy of the Republic of Lithuania
Tokyo



今回、愛知産業大学三河高校の教職員や生徒の皆さんとお知り合いになれたことを、とても嬉しく思います。五井平和財団の西園寺裕夫理事長より貴校訪問のご提案をいただき、喜んでお引き受けしました。心より感謝しています。私の祖国リトアニアについて、生徒の皆さんにご紹介する機会を持つことが出来、嬉しく思いました。最初は、自分がこのような大人数の、しかも、きちんと事前学習をされている皆さんの前で話することに、正直、少し不安な気持ちがありました。しかし、生徒の皆さんたちから非常に温かい歓迎を受け、私の国に関心を持っていただいていることを知り、とても安心しました。リトアニアと日本は文化も異なり距離も離れていますが、中山樹さんによる素晴らしい通訳のお陰もあり、全ての壁が溶けて無くなりました。他国の文化や人々への純粋な関心、そして、お互いに意思疎通を図ろうという意思は、まさにどんな障害物をも乗り越えるだけの力となります。そして、皆さんを東京のリトアニア大使館にぜひご招待したいと思います。

生徒の皆さんのリトアニアについての発表は本当に素晴らしく、心の底から魅了されました。私は生徒たちのリトアニアへの関心が益々高まり、もっと多くの日本人がリトアニアへ留学して欲しいと心から願っています。リトアニアと日本の間には多くの共通点があります。それには伝説的な外交官、即ち国々の中で正義を表した杉原千敏の記憶を分かち合うことも含まれています。杉原の人道主義に基づく行為は、日本とリトアニア両国の若者たちにとって、素晴らしい模範であると言えるでしょう。

生徒の皆さんには、一生懸命に勉強し、大きな夢を抱いて欲しいと願っています。あなたたちは若く、やる気や才能もあります。大和魂を持ち続けられれば、きっと自らの夢を諦めないでいられると思います。

私は愛知産業大学三河高校の益々のご発展をお祈りしています。改めて、皆さんの温かいおもてなし、そして、皆さんと出会えたことに、心より感謝いたします。



写真提供：「NPO 杉原千敏命のビザ」

NPO法人 愛・知・みらいフォーラム 国際理解教育「出前授業」講師 古藪 真紀子



この度は、第34回文化祭にお招きいただき、ありがとうございました。

皆さんの前で、国際開発について、アフガニスタンについてお話してきたことを大変うれしく思います。

ある生徒さんが講演後コメントをくれました。「現地の声が直接伝わってきてとても感動しました！女性に笑顔があったので、本当に現地が求めている理想的な海外貢献の形だと思いました。」

高校生の皆さんが、今、直接現地に行って、何かをするというのは難しいかもしれませんが、でも、今まで、自分とは関係のないと思っていた戦争や紛争、貧困などを身近に感じ、なぜそんな事が起こっているのかを「知る」ことから、国際協力は始まります。

今回の講演を通して、皆さんが少しでも、国際協力・開発やアフガニスタンについて、「知りたい」と思ってくれたのなら、大変うれしく思います。そして、将来、世界に羽ばたいてくれることを願っています。

公益財団法人 五井平和財団 鈴木 啓介

昨年のトンガにつづき、本年もリトアニアと愛知産業大学三河高等学校の皆さんとの交流をお手伝いできたことを、とても嬉しく思っています。私は今回、初めて学校に伺わせていただきましたが、全校生徒の皆さんのいきいきとした姿にとても驚き、素晴らしい文化祭だと感じました。

講演やパネルディスカッションに熱心に耳を傾けるだけでなく、それぞれの講師の先生に対して、気持ちのこもった挨拶や校内見学での説明、また文化祭の準備に取り組まれている様子は、同行させていただいた私も感動をいたしました。

インターネットなどによって、世界が身近になった今こそ、今回のような講演を通して、直接さまざまな国を知ること、将来必ず役に立つと思います。これからは積極的に世界に触れ、近い将来、地球の一員として活躍していただきたいと願っています。



～～プレゼンテーションやパネルディスカッションで協力してくれた生徒の感想を紹介します。～～

中高一貫コース 塩治 玲奈

駐日外交官による交流プロジェクトの国として、リトアニア共和国と知らされてから、クラスメートと共に文化歴史などを調べて行く中で、リトアニアの魅力に触れ、大使の講演を聴くのが楽しみでした。

大使講演の際、体育館のバスケットゴールを見てリトアニアのバスケットボール事情をお話しになったことも印象に残りました。

事前に歴史や地理について調べていたので大使講演を聴きリトアニアの知識をより増やすことが出来ました。

パネルディスカッションの時、ボランティア活動報告としてプレゼンテーションを行いました。

会場の皆さんの真剣な眼差しが印象に残っています。

今回の体験を踏まえ、多様な留学経験を共有し意見交換する場を作りたい、そして、また海外へ行きたいと思う気持ちが強くなりました。

電気科1年 大逸 信之介

私は今回リトアニア臨時代理大使のお話を聴いて、リトアニアについて詳しくなれたのと、一度リトアニアに行きたい気持ちが高まりました。

私は、元々ヨーロッパの国々に興味を持っていて一度行ってみたいと思っていたのですが、日本との関係や、日本人がどう思われているのか、どう接していいのかなど少し心配な所がありました。

今回、リトアニアの歴史や文化・食べ物のお話を聴き、ヨーロッパの国々へ行くことへの心配よりも、ヨーロッパの国々に行きたい気持ちの方が強くなりました。

臨時代理大使が話題としてリトアニア郷土料理を紹介されましたが、紹介された郷土料理のほとんどは知っていました。残念なことにまだ一度も口にすることがありません。もし、リトアニアに行く機会があったら、一度食べてみたいです。

今までの学校生活で、パネルディスカッションのような代表として舞台上上がるのは初めてだったので、とても緊張してしまい思い通りに出来ませんでした。しかし、今回のパネルディスカッションは、とても良い経験になったので、学級委員の仕事でも、この経験を生かそうと思います。

普通科2年 島 麦土

国際理解教育「出前授業」古藪講師の話聴いて、間違いなく先進国である日本で生活している私達には想像もつかないアフガニスタンの現実に衝撃を受けました。

女性たちには、教育を受ける機会が全くなく、自らの意志のままに外出することも許されない。「宗教上のきまりであるから。」という理由で片付けるわけにはいかないだろう。

アフガニスタンの女性たちは、エンパワーメントし始めている。何もジェンダーの差を縮めるのに女性だけが変わらなくてよい。男性にもやるべきことがあるだろう。次に変わるべきは男性だと私は考えます。

パネルディスカッションの際、「あなたが杉原千畝だったら、助けを求めに来たユダヤ人にどうするか。」という質問に答えました。この問いに答えるのは、二度目であったが、今回は迷わずに「同じようにする。」と答えた。

今後、数多くの決断に迫られるだろう。そんなとき、千畝さんのように、“人のため”常に正しい選択肢を選ぶ大人になりたいと思います。

前期生徒会 書記 北谷 辰樹

国際理解教育「出前授業」古藪講師の話聴いて、ボランティアには、大きいや小さいなどないはず。それは、どちらも人の役に立てることに変わらないからです。自らチャレンジするかどうかが大切です。私自身、ボランティアをしているので、改めてチャレンジすることの大切さを感じました。

パネルディスカッションでは、リトアニアと日本の関係を深く知ることができたと同時に、戦争中にユダヤ人6000人余りを救ったとされる杉原千畝さんのことをさらに知ることができました。

前期生徒会 副会長 稲本 響胡

国際理解教育「出前授業」古藪講師の話聴いて、JICAの一員のと、現在の名古屋大学の助教として学生とともに、世界各地に訪問され活動されているからこそ、具体的に文化や風土の違いがお話を通じ伝わってきました。リトアニア臨時代理大使とは違った視点から学ぶことが出来ました。

特に、宗教上に関係しての女性問題が印象に残りました。男女差別は、日本や世界各国で問題視されています。これを機に男女平等のあり方を見つめ直したいと思います。

リトアニア臨時代理大使の講演後におこなったパネルディスカッションの司会を務めました。聴く側だけではなく、パネラーとともに伝える側を初めて体験しました。大使の話とは違った観点でリトアニアの文化・歴史をパネラーとともに伝えることができ、貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。



〔五井平和財団〕や〔愛・知・みらいフォーラム〕をはじめ、資料提供していただいた関係者の協力もあり実施することが出来ました。ありがとうございました。